

報告

災害時外国人支援ボランティア研修@中区役所

この研修は、大規模災害発生時に外国人被災者を支援するための研修・訓練の機会として、名古屋国際センターに登録する災害語学ボランティアや自治体職員、外国人支援関係者などを対象に毎年実施しています。

1月18日(土)、「災害時の行動シミュレーション」をテーマに、名古屋市中区役所との共催で、実際に災害対策本部が置かれる区役所を舞台とした災害語学ボランティアの参集・聞き取りシミュレーションなどを行い、55名の参加者と8名の外国人協力者が学び合いました。



▲前半は被災地派遣を経験した名古屋職員による講演

▲中区役所の窓口を利用して、参集受付を体験



▲被災者役の外国人協力者への聞き取りシミュレーション



▲役割別・地域別のグループに分かれて話し合い、発表した

区役所を会場にしたことで、より実践的な内容の研修ができました。役割別、地域別のふりかえりでは、日本人・外国人を含めたさまざまな立場の人が、災害時の外国人支援について意見を出し合い、「もっとわかりやすい”やさしい日本語”が必要」「外国人被災者の心細さに寄り添う話しかけ方が大事だ」「災害語学ボランティアの活動をもっと市民に周知したい」など、今後への課題やヒントを多く得る研修となりました。

世界のレシピ

～みんなで作ってみよう～



LUGAW (ルガウ)

フィリピン人移住者センター 代表 石原バージさん(フィリピン出身)

フィリピン風のおかゆです。もともと雨の季節や寒い時期の料理でしたが、現在ではさまざまなトッピングを楽しみながら日常的に食べられています。手軽に、簡単な材料で調理できてからだも温まるので、災害時などの炊き出しにはピッタリです。いつもと違った風味のおかゆは、心もいやしてくれそうです。

材料 2～3人分

- 鶏肉(骨なし) ..... 200g
- 米(長粒米。普通のコメも可) ..... 2カップ
- 玉ねぎ ..... 2個
- 長ネギ ..... 1本
- ニンニク ..... 2かけ
- ショウガ ..... 1個
- パティス(魚醤。めんつゆ、しょうゆでも可) ... 大さじ1
- ターメリック(ウコン) ..... 大さじ1
- 塩・コショウ ..... お好みで
- ラード ..... 大さじ2
- 水 ..... 3～5カップ

作り方

- ① 鶏肉を一口サイズに切り、パティスにつけておく。
- ② 玉ねぎをスライスしておく。ニンニク、ショウガをみじん切りにするかつぶしておく。大き目の鍋にラードを入れ、ニンニク、ショウガ、玉ねぎをよく炒める。
- ③ 玉ねぎがきつね色になったら鶏肉を入れ、炒めてから米と水を入れる。
- ④ 塩・コショウで味を調べ、お好みでパティスを加える。ターメリックを入れて米がおかゆ状になるまで煮込む。
- ⑤ 火を止めて、みじん切りにした長ネギを加えて出来上がり。

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



隔月刊ニック・ニュース(No.397)令和2年4月1日発行  
発行編集公益財団法人名古屋国際センター

本事業は、名古屋市の指定管理事業です。

〒450-0001 名古屋市中区那古野一丁目47の1 名古屋国際センタービル内 TEL052-581-0100 FAX052-571-4673  
E-mail: info@nic-nagoya.or.jp Web: https://www.nic-nagoya.or.jp/ ●制作デザイン 神田印刷工業株式会社

なごや 国際交流通信 隔月刊ニック・ニュース

名古屋国際センター NAGOYA INTERNATIONAL CENTER

NIC NEWS NAGOYA INTERNATIONAL CENTER No.397 2020 4・5



防災出前講座(東別院日本語教室にて)

特集

「私たちの防災」

～災害時の「食」ワークショップから考える～

- NICあれこれ探検隊 外国人行政相談事例の紹介 P1
- ぶらりライブラリー 絵本、日本語、DVDコーナーの紹介 P1
- NICレポート ・外国人の「心」と「からだ」健康相談会 ・ピアサポートサロン P2
- グローバルに活躍する若者たち グローバルユースカフェ P2
- 国際留学生会館から 安藤 咲さん(チューター) P3
- ともくら グエン・ティ・チンさん(ベトナム) P3
- Leader's Eye ニカラグアの会 P4
- 姉妹友好都市の広場 名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携60周年 P4
- 特集 P5～P8
- NIC PAGE P9・P10
- 災害時外国人支援ボランティア研修 表表紙
- 世界のレシピ「ルガウ」

名古屋国際センターへは、地下鉄桜通線「国際センター」駅下車が便利です。

情報満載  
https://www.nic-nagoya.or.jp/  
各種お問い合わせは、3階情報カウンターまでどうぞ。  
☎(052) 581-0100  
●情報サービスコーナー、ライブラリー ● 火～日曜日9:00～19:00(月曜休館) ●貸し施設 ● 月～日曜日9:00～21:00(予約受付は9:00～17:30)



# NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

## NIC相談窓口から — 外国人行政相談 —

年間約1000件もの相談が寄せられる「外国人行政相談」の内容は、税金、健康保険、在留資格など多岐にわたっています。ここでは、相談事例の一つとして「印鑑登録」についてご紹介します。

### 「印鑑登録に漢字は使えないと言われた」

Q 外国人の知人が印鑑登録に漢字を使っているのですが、私も漢字で印鑑登録をしたいと区役所に申し出たら、できないと言われた。どうしてか知りたい。

A 印鑑登録証明制度は、契約書などの重要書類に捺印された印鑑(実印)がまちがいなく本人のものであることを証明する制度です。

名古屋市の印鑑条例によれば、印鑑登録ができるのは名古屋市の住民基本台帳に登録されている人と規定され、15歳未満の人及び成年被後見人は除かれています。登録できる文字は、住民基本台帳に登録されている



▲行政相談員と相談者

「氏名」「氏」「名」「旧氏」または「氏・名・旧氏」の一部で組み合わせられた文字(組み合わせによっては、登録できない場合もあるようです。)と定められています。

外国人住民の場合、住民票に登録されている氏名(在留カードまたは特別永住者証明書に記載されている氏名)のほか、住民票に登録されている「通称名」または住民票備考欄に記載されたカタカナ表記や簡体字についても登録できる場合があります。

あなたの場合、住民票に漢字による「通称名」の登録をしていないとのことですので、漢字での印鑑登録ができません。「通称名」で印鑑登録するには、社会生活上日常的に用いられていることを立証できる「通称名」を、市区町村の窓口へ申し出て住民票に記載してもらう必要があります。

印鑑登録証明制度は市区町村の条例等で定められていますので、詳しくはお住まいの市区町村の役所で確認ください。

★外国人行政相談については、NIC情報カウンター ☎052-581-0100までお問い合わせください。

# NIC レポート

## 外国人の「心」と「からだ」健康相談会

外国人住民の健康をトータルサポート!

1月26日(日)に、名古屋市健康福祉局、(特活)外国人医療センターとの共催で「外国人の「心」と「からだ」健康相談会」を開催し、外国人51名が参加しました。ご自身の健康管理と、日本の医療や福祉の制度を知ってもらうため、毎年開催しています。今年は、医療従事者による問診や歯科検診等の検査、結核検診、助産師による「女性のための健康相談」に加え、(社)名古屋社会福祉協議会の協力により「65歳以上の人の介護と生活相談」を行いました。参加者からは、「日本での老後について」、「出産後の健康状態」、「育児」についてなどの相談がありました。



▲老後の相談をする外国人住民

外国人市民は、言葉の問題で医療機関を受診しづらい、健康診断の結果がわからない、医療や、福祉の制度がわからない場合があります。名古屋国際センターは、関係機関と連携し、医療や福祉の制度についてわかりやすい情報提供に努めます。

## ピアサポートサロン

子どもの健康と幸せを願う気持ちはみんな同じ!

学校への疑問や子育ての悩みなどを共有できる仲間づくりの場を目的に、ピアサポートサロンを開催しました。12月~2月に各1回開催し、外国人25名、日本人20名の方に参加いただきました。「子どもと接する中で、こうしたいこと、こうしなかったことは?」というテーマでは、「パートナーの帰りが遅いので一人で子育てするのがつらい」という外国人のお母さんの悩みに、「子育ての支援センターへ行ってみては?」など参加者の経験からのアドバイスが飛び交いました。国籍に関係なく悩みを持ち、「悩んでいるのは私一人だけではないんだ」と安心を分かち合う場になりました。一人ひとりの悩みに耳を傾けることで、サロン終了後も会話が途切れることなく、情報交換をする参加者の姿がありました。仲間づくりの第一歩から、交流が続くことを願いながら、今後もこうした場を提供していきます。



▲子育てについて語り合う参加者

# ぶらり ライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに当たる場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。NICライブラリー 名古屋国際センタービル 3階 9:00~19:00 月曜休館

## NICライブラリーの魅力に迫る!

名古屋国際センターのライブラリーは、一般の図書館と少し違い、国際理解や多文化共生、各国紹介などの分野に特化した書籍や資料を中心に揃えています。今回は、NICライブラリーならではのコーナーをご紹介します。

### ◆親子絵本コーナー

世界の絵本がおよそ4,600冊あります。海外の珍しい絵本のカラフルなイラストを見るだけでわくわくします。文字が読めなくても、どんなことが書いてあるのか、イラストを見ながら想像するだけで楽しくなります。また、日本の絵本の外国語版を探して、両者を見比べながら読むのもおすすめです。



学習者向けの日本語教材をレベルごとに見ていくと、その答えがわかります。

日本語コーナーは、私たちが「やさしい日本語」を学ぶ際にも役に立ちます。



### ◆DVDコーナー

世界遺産や紀行シリーズのほか、教育や環境問題を追ったドキュメンタリー作品が並んでいます。また、子ども向けのアニメは、外国語の字幕や音声が付いたものも多数あり、語学を学ぶ方にも人気です。

### ◆日本語コーナー

日本語学習者向けのテキストだけでなく、日本語を教える方のための本も充実しています。外国人とコミュニケーションをとるとき、「話せません」より「話すことができます」と表現する方が伝わりやすいと言われてはいますが、それはなぜか…

大きなライブラリーではありませんが、海外の本や外国人の方の利用も多く、グローバルな雰囲気がある反面、どこかホッと落ち着けるような空間です。ぜひ、ご利用ください。

クイズ Q. NICライブラリーは、年間どのくらいの方が利用しているのでしょうか。

(読者調査レポート) 2019年10月調査

# グローバルに活躍する若者たち

## 若者が語り合う自由な場を目指して「グローバルユースカフェ」

### 「グローバルユースカフェ」とは?

「海外に行きたい」「世界の出来事に関心がある」という若者が集い、語らい、一歩踏み出す「つながりの場」として実施しているイベントです。2018年から開始し、毎回様々なテーマで行っており、多くの若者の交流を生み出してきました。最近開催したイベントをご紹介します。

### 留学生とみつける!名古屋の魅力

2019年 10月実施

### 海の向こうから生中継!海外暮らしのリアル

2020年 1月実施

「海外で出身地を尋ねられたら?」をテーマに、留学生3名をゲストに迎えて名古屋の魅力探しを行いました。知っているようで知らない地元の魅力を、留学生との意見交換から発見し、最後には寸劇やFacebookなどのユニークな方法で名古屋をPR! 同世代同士、大いに盛り上がり、どんどん新しい発見や個性的な表現が生まれていきました。



▲留学生を交えて名古屋を「再発見」



▲寸劇で名古屋のくらしやすさをPR!

日本から海外に移り住んだゲスト3名とビデオ通話をつなぎ、海外で活躍する楽しさや難しさなどリアルな声を届けました。時間も気候も違う国で暮らすゲスト同士で共感あう点があったり、日本の参加者から海外ゲストへ質問を投げかけたりと、4か国をまたいだ若者の交流を生み出しました。



フィリピンの現在の気温は20度以上!

カナダは深夜。外は雪が積もっています!

中国は春節のお祝い真っ最中!

▲参加者からの質問に、カナダ・フィリピン・中国からゲストが回答!

グローバルユースカフェの最新情報は、「NIC Global Youth プロジェクト」FacebookやNICウェブサイトを中心に公開しています。ぜひチェックしてください!

☎ 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉ koryu@nic-nagoya.or.jp





# 国際留学生 会館から

## 「大切なことは心と心を繋ぐこと！」 ～チューターとして私たちができること～

愛知県立大学看護学部(2020年3月卒業)  
安藤 咲さん



私は2018年9月から2020年2月までチューター\*1として国際留学生会館(以下「ISC」)に入居していました。私は何事にも好奇心旺盛で、とりわけ国際交流に関心があり、アメリカの大学への留学経験もあります。現地の学生寮に入居していたとき、チューターがとても親身になってサポートしてくれたので、有意義な留学生活を送ることができました。今度は私自身がその経験を生かし、異文化に囲まれながら日常生活を送る留学生の役に立ちたいと考えチューターに応募しました。

チューターの業務は生活全般の相談や通訳、病院の付き添いなど多岐に渡っていますが、私が一番大切に考えていることは、留学生同士の間と心を繋ぐことです。チューターは私を含め6名いますが、毎月ミーティングを行い、チューター企画のイベントについて知恵を出し合います。それぞれの留学生が持つ言語や文化は多様で、そのような留学生同士をどのようにして繋ぐことができるのかを一番に考えて企画をしています。これまで行ったイベントは歓迎パーティやランゲージ・エクスチェンジ\*2、



▲私たちがチューターです。(右から2番目が安藤さん)

スポーツ大会などがあります。様々なイベントを行うなかで、参加した留学生同士がお互いを認め合い、友情を深めてもらえることがチューターとしての一番のやりがいです。

ランゲージ・エクスチェンジでは、言葉だけでなくその国の風俗や習慣も共有することができました。またスポーツ大会では、卓球やバドミントンなどを通じて、皆がひとつになり楽しみながら汗を流しました。

これからも留学生には様々なイベントなどの交流の機会を通じてお互いを理解し、真の友情を育てていただくと同時に、将来帰国した際には母国と日本との懸け橋となっていきたいと思っています。



▲ランゲージ・エクスチェンジにて(右から4番目が安藤さん)

(\*1) 留学生の日常生活について助言したり、ISCの事業や運営に協力する学生。  
(\*2) 日替わりで特定の言語を指定し、その言語により交流会を行う。(英語、中国語、韓国語など)

国際留学生会館とは… NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

# ともくろ

このまちで、共に暮らす外国人たち



この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。

## 実際に体験することで知る日本

グエン・ティ・チンさん(ベトナム出身)



ベトナムの大学で4年間日本語を専攻し、卒業後は日本語の翻訳、通訳の仕事をしていました。日本人の主人とは仕事で知り合いました。昨年の春、主人の転勤に伴い家族で日本へ来ました。子どもはもうすぐ4歳になります。

ベトナムでは日本へ来る実習生に日本語を教える仕事もしていました。愛知や岐阜、三重で働く教え子たちがいるので今も時々会うことがあります。

現在は子育てがメインの生活で、幼稚園で知り合ったママ友との交流が楽しい時間になっています。週1回仲間が集まってヨガをするのですが、とてもリラックスできます。

私の家でママ友にベトナム料理をふるまったり、反対に日本料理を教えてもらったりもしています。ベトナムにいたときから本を見て日本料理を作っていました。実際に彼女たちがやっている方法を知ることができるのはよい勉強になります。これから、日本料理を学ぶために料理教室にも通う予定です。今から楽しみにしています。

日本で子育てをする中で感じるの、お店にキッズスペース

があったり、飲食店に子供用のイスやお子様ランチがあるなど、子どもに対して配慮されていることです。最近では日系企業の進出もあり、ベトナムにもそのような設備のあるお店が増えてきましたが、まだ一般的ではありません。今、ベトナムでは日本の子育てスタイルを紹介する本がたくさん出ています。

将来、子どもがもう少し大きくなったら翻訳や通訳の仕事をしたいと考えています。そのために今、日本語能力検定1級取得に向けて勉強をしています。習った日本語と、実際に日本で使われている表現とは違うと感じることもあるので、日本語を自然に使えるようになりたいと思っています。



▲ママ友とベトナム料理会(前列右端がグエンさん)

途上国の現場で活躍する、地域の国際協力NPO/NGOリーダーにお話を伺います。



～国際協力・ニカラグア編～  
明日を担う人たちのために!

テーマ:教育・環境

ニカラグアの会  
事務局長 伊藤 幸慶さん

リーダーズ・メッセージ  
限界に挑めば誰でもそこから  
わかることがある!



ニカラグア北部の町エステリで、夜間成人女性学校への支援と電気事情の改善のため、再生可能エネルギー利用促進に取り組む「ニカラグアの会」事務局長の伊藤さんにお話を伺いました。

1979年のニカラグア革命後、内戦が続き、1985年にアメリカが大きな港を封鎖したため、食料品、医療品の不足を招きました。これにより、困難に陥ってしまった子どもたちの姿は、世界的なニュースとして報じられ、それを知った南山大学の学生たちによって「名古屋ニカラグアに医療品を送る会」が設立されました。同会は、現在も「ニカラグアの会」として現地のNGOとともに支援を続けています。

ニカラグア北部山岳地帯の電気不足解消のため、2011年からソーラーパネルプロジェクトを夜間成人女性学校の職業訓練支援の一環として始めました。当初、現地でパネルの生産・販売をし、再生可能エネルギーの普及を行う計画でしたが、安価な輸入のパネルに押され、採算が取れなくなり工事は断念しました。現在は、日本のパネル製造の専門家から指導を受けた現地住民

が、技術講習会を開き、住民自身でパネルをつくれるよう指導をしています。同会はパネルの材料を支給することで、現地の再生可能エネルギーの普及と住民の環境意識の向上に貢献しています。

また、革命政権時の文芸復興運動で注目を集めるようになった「ニカラグア素朴画」を購入し、日本でその展示会やカレンダーの制作・販売を行い、活動資金の一部に充てています。

豊かな自然環境やフレンドリーな国民性から、現地での活動がしやすい反面、文化・社会が日本とは違うので、住民主体での活動につながる支援の切り口を見つけるのが難しいと感じています。

世界的に、ジェンダー平等社会へと変わりつつありますが、今も続く男性優位な社会(マチズモ)を、どうやって変えていかなど、近隣の国々との交流の中から住民主体で問題解決に進めるよう、見守り、ファシリテートする支援の仕方も今後は考えていきたいです。



▲技術講習会を行う現地の青年

ニカラグアの会  
Web <http://www.aichinet.ne.jp/~nicaragu/>  
Facebook [nicaraguajapan](https://www.facebook.com/nicaraguajapan) 検索

# 姉妹友好 都市の広場

2019年度は、名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携60周年の記念イヤーでした。



名古屋の象徴「シャチ」と、ロサンゼルス市の象徴である「グリスリーベア」をイメージした姉妹都市提携60周年記念のロゴマークです。

## 名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携60周年

### 伊勢湾台風60年パネル展示



▲パネル展示の様子

8月から10月にかけて、名古屋市内各所で伊勢湾台風60年のパネル展示を行いました。伊勢湾台風は、姉妹都市提携を結んだ1959年4月から5ヶ月後の9月に発生し、その直後から、当時のロサンゼルス市長らの働きかけにより、世界中のどの都市よりも早く、多くの支援が名古屋市に届けられました。

当時の貴重な写真や新聞記事を含めたパネル展示では、その歴史を改めて振り返ることができ、ロサンゼルス市民から差し伸べられた救いの手・友情を今後も語り継いでいく機会となりました。



▲当時の写真

### 名古屋デー2019



▲「名古屋デー2019」会場の様子

10月26日(土)に、ロサンゼルス市で姉妹都市名古屋の魅力PRするイベント「名古屋デー2019」を開催しました。

会場は、ロサンゼルス市のウェストフィールドセンチュリーシティで、当日は40,000人以上の人々が訪れ、大変な賑わいとなりました。中でも、名古屋コーチンの試食は、行列ができるほどの人気でした。また、和菓子づくり、折り紙、書道、打掛の着付けの日本文化体験コーナーも人気があり、日本文化への関心の高さが感じられました。そのほか、お茶(野点)体験コーナーでは、名古屋の企業の協力により、いろいろうべせんべいが振舞われ、こちらも大人気。名古屋めしのさらなる可能性を感じた一日となりました。



▲絞り体験の様子

### 「ウェストフィールドセンチュリーシティ」ってどんなところ?

ロサンゼルス的高级住宅街として有名なビバリーヒルズに近い場所にあるショッピングモールです。ロサンゼルス市民のみならず、旅行者も多く、週末(土曜日・日曜日)は、1日に65,000人が訪れる人気スポットです。ロサンゼルスへ行かれる際は、ぜひ訪れてみてください。

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

Web <http://nsca.gr.jp/> Facebook [nagoya.sistercities](https://www.facebook.com/nagoya.sistercities) 検索



# 「私たちの防災」

## ～災害時の「食」ワークショップから考える～

### 自然災害大国、日本

海外のニュースでも自然災害による被害の様子を取り上げられることが多い日本。内閣府の平成22年版防災白書によれば、2000年～2009年に世界で起こったマグニチュード6.0以上の地震1,036回のうち、実に20.5%の212回が日本で発生しています。面積の割合で考えれば、世界全体を1として、そのたった0.28%でしかない国土で、どれくらい多くの地震が日本で起こっているかがわかります。そして、世界にある1,548の活火山のうち、7%の108が日本にあります。

人口減少や少子高齢化に伴う労働人口の減少を補うため、日本は外国人労働者を受け入れる方針をとり、日本で生活する外国人が増え続けています。名古屋市の外国人人口は東京に次いで約88,000人(2019年末現在)の過去最多となっています。

この特集では、「外国人」という言葉をタイトルに入れず「私たちの防災」としました。この「私たち」は、この地に暮らす人、全てを含みます。いつ起きるのか、そして誰がどこで被災するかわからない、それが自然災害です。そんな自然災害に立ち向かうために、「外国人」「日本人」と分ける必要はなく、私たち一人ひとりが自分事として一緒に考えることが必要です。

今回、個々が持っている災害や防災に対する認識について共有し、平常時にどんな地域のつながりが必要か考えるために、日本に暮らす外国人の方々に集まっていたいただきました。災害時の「食」という切り口で行ったワークショップ(以降WS)の内容とそこから見えてきたことをお伝えします。

### こんなもの準備してます

- 日本の避難所は何でもそろってほしいので、携帯用予備バッテリーとか、そこでは配給してもらえないような個人利用の物を準備しています。
  - いつも飲んでいる薬      • 水
  - 食品ラップ(傷の手当、防風、お皿を汚さないようにカバーとして使える)
  - パスポートのコピー      • 愛護手帳のコピー      • 懐中電灯
- 被災地で何度も支援活動に携わっている参加者もあり、食品ラップの使い方などを詳しく教えてくれました。

### 災害のない地域から来て…

- 初めての地震はびっくりした。
- 何度も小さい地震を体験するうちに、日本の建物は揺れるけれど頑じょうにできていて、倒れることはないのではと思い始め、地震が起きて大丈夫と感じるようになってきた。
- テレビなどでニュースの映像を見るかぎり、日本では避難所に行けば生活に必要なものは何でもそろっているように思える。だから、何も準備をしなくてもいいのではないかという気持ちもある。

### 妙な安心感?本当に来るの?

- 「大きな台風が来る、来る」と言われているので、最初のうちはとても心配していたが、今のところ被害はない。もしかしたら、本当は大丈夫なのかもしれないと感じることも多くなってきた。外国人住民の間では、逃げなくてもよいと思っている人も結構いる。
- 台風のニュースで、傘が飛んでいくシーンをよく見かけるが、日本のテレビ局はあのシーンで何を伝えようとしているのか?もし、あれで災害に対する危機感を伝えようとしているならば、逆効果。外国人の私たちはあの映像をみると、いつも通りの雨風ね、大した事はないね、と思ってしまう。。。

- 課題① (避難)情報の強弱が伝わりにくい。  
避難情報に慣れっこになり危機感が薄れる。

### ワークショップ WS みんなで考える災害時の食

- 参加者 14人(国籍:タイ、中国、パキスタン、フィリピン、ブラジル、ベトナム、ペルー、メキシコ)
- 日時 2020年1月19日16:30~18:30
- 場所 名古屋国際センターライブラリー内 交流スペース

(注)ワークショップは日本語で行いました。  
名古屋国際センター災害語学ボランティアに登録をしている人も何人かいます。

はじめに、参加者の防災に対する意識や捉え方を共有するために質問をしました。

- ? 災害のために、何か準備をしていますか。
- ? 出身の地域は自然災害が多いですか。
- ? 災害に関して日本で驚いたこと。

びっくりした!コンビニにもスーパーにも何にもなかった。仕方ないから、残っていた水だけ買った。

日本人の人たちは、いつ知ったの? ぜんぜん気がつかなかった! ども空っぽ!!!いつ買い出しに行けばいいのかわ教えてよ!

### コンビニの食べ物が消えて知った台風

日本人、いっぱい買うね。

参加者の多くが、買い物に行き、棚に品物が無いのを見て、初めて台風が近づいていることを知った体験があるということです。ここにも課題が見えてきました。

- 課題② 外国人住民には情報が伝わるのに時間がかかる。  
課題③ テレビなどの情報に対してどんな行動をとったらよいかわからない。

## 避難生活とストレス

これまでの被災地の報告などによると、避難所と言ってもその環境はさまざまで、ガスが使えるところもあれば、送られてきた物資しかなく、温かい食べ物がないということもあるようです。そして、避難所での生活がいつまで続くのかという不安があります。さらに、避難所生活が長くなると震災関連死\*が心配になります。最近の自然災害による被害では、災害そのものによる直接死よりも震災関連死の方が上回ることがあったことも複数報告されています。

復興庁の「東日本大震災における震災関連死に関する報告」(平成24年)によれば、震災関連死の原因で一番多いのは「避難所等における生活の肉体・精神的疲労」で震災関連死全体の3割にも及びます。冷たい床の上に薄い毛布を敷いたり、狭いスペースに詰め込まれ、精神、肉体的に疲労困ぱいの状態など、慣れない場所で、たくさんの人に囲まれての集団生活による精神的な疲労は計り知れません。

そして、食事についても配給が自分の食習慣とは異なるものであったり、トイレに行くのが面倒で、水分を控えることもあります。ニュースで取り上げられる避難所の映像では、菓子パンや調理パン、おにぎりなどの配給をよく見かけます。冷たい食べ物が続くと食欲も減退し、体力の低下にもつながります。

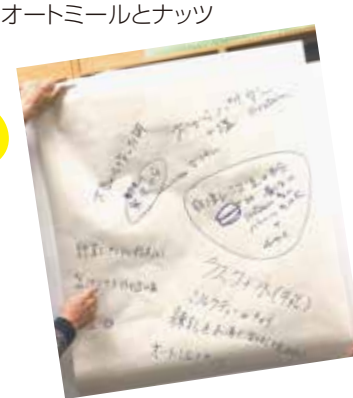
そこで、私たちは、自分たちが被災したら食べたいレシピを参加者全員でアイデアを出し合いながら考えました。

\*震災関連死/災害が起こった時には助かったが、避難生活を続ける中で体調を崩しなくなり、その死因が災害と因果関係があると認定されたもの。

### 災害レシピを考える

A班は、備蓄していた食品を駆使し、いかにおいしい物を食べられるかを考えたようです。

- 例えば
- ラスクを水(又は、牛乳)につけて柔らかいフレンチトーストのような料理
  - 練乳をお湯で溶かせば牛乳みたいな飲み物になる
  - 乾パンとトマトの缶詰+塩      • 乾燥レンズマメ
  - おからパウダー+塩      • 大豆から作った肉 など。
  - オートミールとナッツ



A班



B班

一方、B班は、備蓄した食品が建物の下敷きになったり、水で流されるなどして食べられない想定で、ワイルドに、魚を釣りに出かけ、イノシシを捕まえ、火をおこし、魚は粘土で固めてから焼き、芋や豆なども使って、おいしい温かい料理を考えました。

タイ出身の参加者が、「今僕が言っているやり方はタイの農村部では当たり前の生活だよ。」という言葉が印象的でした。タイ出身の参加者がいなかったら、このアイデアは大きく変わっていたかもしれません。

このレシピを考えたら、被災時の食に求めるものを参加者に聞いてみました。

### 被災時の食に求めるもの

- 被災した時にこそ、元気が出て心を落ち着かせる食べ物が食べたい。
- 小さい時からよく食べている味(母国の味)が食べたい。
- 温かいものが食べたい。
- 落ち込んだ時は食べ物が大事。



# 実際に作ってみました

続いて、子ども・ニックニュースの2019年度冬休み号の裏表紙に掲載した「災害の時に簡単に作れる料理」からクスクスとライスペーパーを使った簡単な料理を体験しました。



本誌の裏表紙に、ワークショップ時に試食したフィリピンの災害時には必ず準備される「ルガウ」のレシピを掲載しています。体が温まり消化のよい、おいしいおかゆです。一度作ってみてはいかがでしょうか。

# WSから見えてきたこと



今回のWSから、参加者の災害の基礎知識、災害に有効な減災行動に関する知識にばらつきがあることがわかりました。特に、自然災害の少ない地域から来た人たちは、今までその必要がなかったため、災害、防災意識が高くないようです。参加者から、外国人住民に対して防災の方法よりも、**防災意識の啓発**を優先させた方がよいのではないのでしょうか。」という声がありました。

**情報が伝わるのが遅い、避難のタイミングがつかめない**など課題もいくつか見えてきました。

例えば、「大型台風がこの地域に接近します」というニュースを見て、国籍に関係なく日本で生まれ育った人ならば多くの人はおそらく、外出できなくなったり流通経路が麻痺してライフラインが止まる可能性を考え、当面の食料を確保するために買物に出かけたり、備蓄の食料を確認します。しかし、台風の経験がない場合、その大型台風接近という情報をもたらす意味が伝わっておらず、何をどのように準備したらよいのか想像が難しいのです。参加者から「接近情報も大切だ

が、「そろそろ買い出しをしましょう。」とか「そろそろ〇〇をしましょう」という具体的な情報がほしい。」との声もありました。食品の備蓄については、毎日こまめに買物に行くのではなく、週に1回買い出しの日を決めて、ローリングストック法\*の考え方を習慣としている家庭もあるようです。彼らのストックを無駄にすることなく管理する方法は参考になります。

その他、参加者からも「いつもは言われることを聞いているだけだったけど、こうして自分たちで考えることで、楽しくなってきた。これからも、この経験を生かして、自分の住んでいるところでも同じようなWSなどに参加したい。」と地域と関わることを望む声も多くありました。地域活動に**主体的に関わる**ことは、他の住民とのつながりができ、災害にも強いコミュニティを作る一歩なのかもしれません。



\*ローリングストック法/定期的に食べて、食べた分を買っていき足していく方法。

防災という観点からすると、私たち日本人と外国人を分けている一番大きな要因は、言葉と偏見だと思われる。「言葉が通じない=言葉の壁」が外国人を災害要援護者だとしているとすれば、滞在年数が長くなり言葉が話せるようになれば、彼らが日本語以外の言葉も話せる特別な存在になり得るのです。そして、変わるのには彼らだけではなく、私たちがたとえば「やさしい日本語」を心がけるなどの意識を持てば、その壁はさらに低くなります。

こうした気づきが一人ひとりの意識を高め、不幸にも発生してしまった災害に誰もが持てる力で共に立ち向かう経験が、私たちがより深く結びつけ、地域の力を高めていくはず。安心して暮らせる社会の実現に向けて、皆と一緒に困難を乗り越えていきましょう!

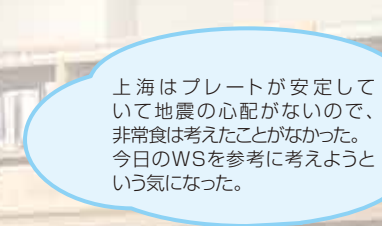
# 参加者コメント

最後に参加者の声をまとめました。



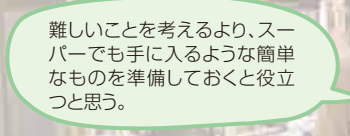
ビビアナさん (メキシコ)

メキシコでは地震はしばらく起きていなかったが、2年前に大きな地震があった。日本からのレスキュー隊の活躍を覚えている。日本で地震や台風の経験をしたので、いろいろ準備している。今日のWSは自分にとって勉強になった。



カクさん (中国)

上海はプレートが安定していて地震の心配がないので、非常食は考えたことがなかった。今日のWSを参考に考えようという気になった。



アニスさん (パキスタン)

難しいことを考えるより、スーパーでも手に入るような簡単なものを準備しておくと思つとる。



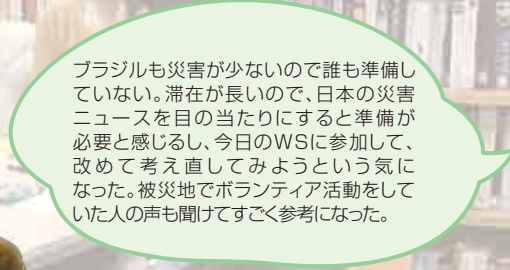
バージさん (フィリピン)

フィリピンでは災害時によくおかゆをつくる。今日はそれを作って持ってきた。



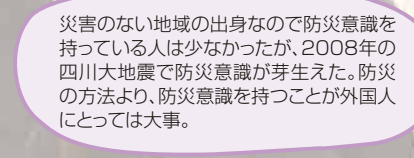
シンシアさん (フィリピン)

非常時は一つの心になって一緒に頑張ろう。



ミチコさん (ブラジル)

ブラジルも災害が少ないので誰も準備していない。滞在が長いので、日本の災害ニュースを目の当たりにすると準備が必要と感じるし、今日のWSに参加して、改めて考え直してみようという気になった。被災地でボランティア活動していた人の声も聞けてすごく参考になった。



シンさん (中国)

災害のない地域の出身なので防災意識を持っている人は少なかったが、2008年の四川大地震で防災意識が芽生えた。防災の方法より、防災意識を持つことが外国人にとっては大事。



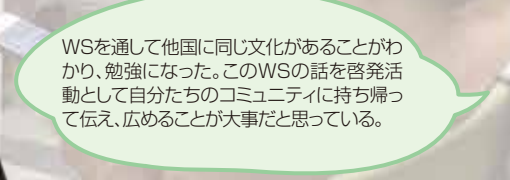
ヨケットさん (タイ)

タイ人は川で体を洗ったり、魚も取って食べている。水も地面を掘って湧かしてのもので、災害時でも普通にできるが、日本ではカップラーメンの準備をしている。



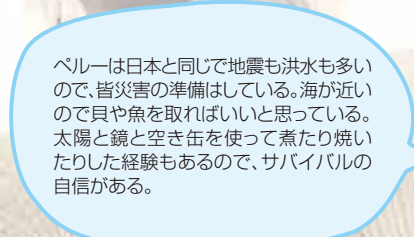
ホアさん (ベトナム)

日本語学校でも災害や避難の授業があった。災害の少ない故郷だったので、避難するということは、死と隣り合わせという恐怖があったが、今日のWSで避難所でも楽しくできそうとわかり、不安が和らいだ。



エリカさん (ペルー)

WSを通して他国に同じ文化があることがわかり、勉強になった。このWSの話を啓発活動として自分たちのコミュニティに持ち帰って伝え、広めることが大事だと思っている。



ビクトリアさん (ペルー)

ペルーは日本と同じで地震も洪水も多いので、皆災害の準備はしている。海が近いので貝や魚を取ればよいと思っている。太陽と鏡と空き缶を使って煮たり焼いたりした経験もあるので、サバイバルの自信がある。



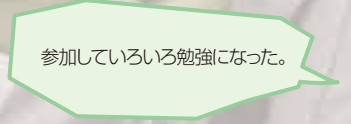
レオさん (ペルー)

乾物と他のものと併せることでおいしく食べられることが分かってよかった。



キヨミさん (ブラジル)

災害の経験がないので実感が湧かなかった。お湯を使って作れるものを準備しておけばいいかなと思った。災害時は避難所で何かを待っているのではなく、何人かが集まって今日のようなWSで何をつくるかと考えれば、避難所でも楽しく過ごせるかなという可能性が見えた。



ルーさん (ベトナム)

参加しているいろいろ勉強になった。

特集

特集



名古屋国際センター (NIC) が行う催し・募集などの情報をお知らせするページです。

メールでお申し込みの方へお願い / イベント名、開催日時、お名前、電話番号を必ずお知らせください。

● 講演・セミナーなど ●

日本語ボランティア研修  
～開かれた地域社会をめざして～

**第1回 お話を聞く会「外国人受入れ制度と現状」**  
多民族・多文化共生社会が進む日本。ともに社会を担う外国人に対して今後求められる政策について、一緒に考えます。  
講師：鳥井 一平氏(移住者と連帯する全国ネットワーク)  
※昨年10月に台風のため中止になった研修です。  
日時 4月11日(土) 13:30～15:00  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室

**第2回 お話を聞く会**  
「外国につながるある生徒のための日本語支援のあり方について ～『中学生のにほんご』を例として～」  
外国につながるある子どもたちは増えています。『中学生のにほんご 学校生活編・社会生活編』を例として、「初級の日本語から教科を学ぶために必要な日本語」の力の育成と、彼らを取り巻く学習・教育環境、必要な支援を考えます。  
講師：志村 ゆかり氏(関西学院大学日本語教育センター)  
日時 5月9日(土) 13:30～15:00  
場所 名古屋国際センター 3階 第2研修室

各回ともに、東海日本語ネットワーク(TNN)との共催。  
対象 日本語ボランティアおよびその活動に興味のある方  
定員 50人(当日先着) 費用 500円(TNN会員は無料) 申込 不要  
交流協力課 ☎052-581-5689  
vol@nic-nagoya.or.jp

外国人児童・生徒サポーター研修～入門編～

外国人の子どもへの支援に関心のある方を対象に、外国人の子どもと保護者の現状や課題を理解し、関わり方を考える研修を行います。  
日時 6月14日(日)、6月28日(日)、7月12日(日) 各日 13:30～16:30  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
対象 外国人児童・生徒のサポートを始めて間もない方、関心のある方。  
定員 40人(選考※上記対象の方を優先します。)  
費用 一般1,500円/学生1,000円(全3回)  
申込 5月12日(火) 10:00から5月23日(土) 17:00まで、ウェブサイト、メール、電話および来館にて受付。  
交流協力課 ☎052-581-5689  
seminar-vol@nic-nagoya.or.jp

◆ 外国人を対象とした事業 ◆

外国人健康相談会

外国人住民が言葉や生活習慣の壁を越えて健康に安心して暮らすために、病気の早期発見、予防、制度の周知啓発等を目的とした健康相談会を開催します。  
日時 5月17日(日) 13:30～16:00  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
対象 名古屋市周辺在住の外国人  
費用 無料  
広報情報課 ☎052-518-0100  
info@nic-nagoya.or.jp

NIC日本語教室(5～7月コース)

**①NIC日本語の会**  
日時 5月17日(日)～7月26日(日)の毎週日曜日(全11回)  
場所 名古屋国際センター 5階 会議室  
対象 日本語を母語としない方  
(小中学生は不可、名古屋市在住の方優先)  
定員 各コース15名～20名(定員を超えた場合は抽選)  
各コースの詳細は、要項またはウェブサイトでご確認ください。  
費用 2,500円(11回分。別にテキスト代500円～1,000円)  
申込 5月10日(日) 11:00～11:30  
名古屋国際センター5階 第1会議室で受付後、順次面接。  
受講料の支払いは12:15から。

**②NIC子ども日本語教室**  
日常生活や学校に必要な日本語の学習支援を必要とする子どもたちを対象とした日本語教室を開催します。  
日時 5月17日(日)～7月19日(日)の毎週日曜日 10:00～11:30(全10回)  
場所 名古屋国際センター 3階 第1・2研修室、5階 和室  
対象 ・日本語を母語としない6歳から15歳までの子ども(2005年4月2日～2014年4月1日に生まれた子ども)  
・2005年4月2日より前に生まれ、現在中学校に在籍している子ども  
※中学夜間学級に在籍している方はNIC高校生日本語教室にご参加ください。

定員 60人(選考) 費用 1,000円(10回分)  
申込 5月10日(日) 9:45～10:15  
名古屋国際センター4階 第3展示室で受付後、順次面接(保護者または引率の方の同席が必要)

**③NIC高校生日本語教室**  
外国人の若者が高校を修了し、キャリア形成につなげられるよう、教科学習に必要な日本語の基盤を築く教室を開催します。  
日時 5月17日(日)～7月19日(日)の毎週日曜日 14:00～16:00(全10回)  
場所 名古屋国際センター 3階 第2研修室  
対象 外国人高校生および高校進学を目指す外国人の若者(2005年4月1日以前に生まれた人。中学夜間学級を除く中学校に在籍している方はNIC子ども日本語教室にご参加ください。)  
※定員に満たない場合、申込日以降も参加を受け付けます。その場合はお問い合わせください。  
定員 20人(選考) 費用 2,000円(10回分)  
申込 5月10日(日) 14:00～14:30  
名古屋国際センター4階 第3展示室で受付後、順次面接。  
受講料の支払いは15:15から。

①②③とも  
交流協力課 ☎052-581-5689  
vol@nic-nagoya.or.jp

■ イベントなど ■

外国語で楽しむ絵本の会

外国人ボランティアによる外国語の絵本の読み聞かせです。絵本を通して外国の文化に触れることができます。  
日時 ①4月26日(日) 14:00～14:30  
②5月10日(日) 14:00～14:30  
③5月24日(日) 14:00～14:30

場所 名古屋国際センター 3階 ライブラリー  
対象 一般(親子、家族) 定員 30人(当日先着)  
費用 無料 申込 不要  
問 広報情報課 ☎052-581-0100  
info@nic-nagoya.or.jp

NIC国際交流ウォーキング

外国人参加者及び日本人参加者が、名古屋の歴史と文化を巡ります。NIC Walking Guidesボランティアが案内します。今回のコースは名古屋大学滅災館と周辺エリアです。  
日時 5月30日(土) 13:00～15:00(12:45集合)  
集合場所 地下鉄名城線 名古屋大学駅  
定員 外国人20名(先着)・日本人10名(抽選)  
費用 無料  
申込 4月25日(土) 10:00よりメールにて受付。  
定員に達し次第受付終了。(日本人は抽選)  
問 広報情報課 ☎052-581-0100  
nickwalking@nic-nagoya.or.jp

第45回NIC本のリサイクルバザー

名古屋国際センターライブラリーで不用になった図書や、古くなった雑誌などを活用するバザーを開催します。バザーの収益の半分を発展途上国の識字教育に役立てるため「世界寺子屋運動名古屋実行委員会」に寄付します。  
日時 6月7日(日) 13:00～15:00  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
定員 なし 費用 無料 申込 不要  
問 広報情報課 ☎052-581-0100  
info@nic-nagoya.or.jp

名古屋国際センター  
サポーター募集!

団体賛助会員 1・2月更新団体

(株)ケイミックス、(株)シーテック、多治見市役所、中部互光(株)、(学)中部大学、中部日本放送(株)、(株)トーエネック、豊田通商(株)、中北薬品(株)、名古屋港管理組合、(一社)名古屋市医師会、日本ガイシ(株)、リンナイ(株)

問 総務課 ☎052-581-5674

名古屋市在住外国人人口 (国・地域別) 上位8か国(令和元年2月1日現在)		
国・地域	人数	
1位 中国	24,353	
2位 韓国・朝鮮	16,319	
3位 ベトナム	10,781	
4位 フィリピン	9,537	
5位 ネパール	7,529	
6位 ブラジル	4,843	
7位 アメリカ	1,580	
8位 台湾	1,214	
名古屋市在住外国人総人口	88,364	
名古屋市総人口	2,328,091	

語学・災害語学ボランティア登録説明会

語学ボランティア

外国人が言葉のサポートを必要とする場面での通訳・翻訳を行います。保育園や行政窓口等の公的機関での通訳、手紙・簡単な資料類等(公文書は除く)の翻訳が主な活動です。活動頻度はNICからの依頼により随時。  
\*平日の活動が多いです。  
(登録条件)  
●英語・下記3つの条件をすべて満たす方  
①英検準1級以上、あるいはTOEIC750点相当 以上  
②平日の活動が可能  
③災害語学ボランティアにも登録いただける方(満20歳以上の方)  
●その他の言語…日本語と日本語以外の言語を高度に使える方

災害語学ボランティア

地震等の大規模な災害時に、日本語の理解が十分でなく、必要な情報を得ることが困難な外国人を支援するため、区役所や避難所での通訳・翻訳、情報収集・提供等の活動を行います。  
平常時では、外国人を対象とした防災啓発活動・訓練等での通訳などを行います。また、NICが実施する研修会等にもご参加いただけます。活動頻度はNICからの依頼により随時。  
(登録条件)  
防災に関心が高い方で、日本語と日本語以外の言語が日常会話程度以上できる満20歳以上の方  
\*災害語学ボランティアにご登録の方は、14時30分から16時30分まで「災害語学ボランティア研修」を実施しますのでご参加ください(9月5日(土)を除く)。

日時 4月18日(土) 7月3日(金) 9月5日(土) 11月6日(金) 令和3年2月7日(日) いずれも 13:30～14:30  
場所 名古屋国際センター 4階 第3研修室 (11月6日(金)のみ3階 第1研修室)  
定員 なし 費用 無料  
申込 説明会前日の午後5時までにお申し込みください。  
交流協力課 ☎052-581-5689  
vol@nic-nagoya.or.jp

編集後記

特集のテーマは自然災害でしたが、今月号を作成中に新型コロナウイルスの感染が拡大し始めました。NICでは外国人市民に向け多言語での情報発信に追われる毎日です。世界中に広まった感染症に私たち皆で協力し立ち向かい、一刻も早く終息することを願います。(久)

★その他のお知らせ★

「第5回 フェアトレード・タウンを動かす! 元気な若者たちのスピーチ」発表団体募集

フェアトレード(FT)に取り組む若者が、その活動内容や想いをスピーチで発信するイベントを開催します。当イベントは、名古屋市内でFTを推進する「名古屋フェアトレード・タウンにしよう会」との共催で行います。スピーチに参加いただける団体を募集します。  
※一般参加者の募集は次号とウェブサイトでお知らせします。  
日時 6月21日(日) 13:30～16:30  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
対象 5分程度のスピーチができるFTIに取り組む団体・個人  
定員 約8団体  
申込 4月30日(木) 23:59までメールにて受付。申込の際には、下記のアドレスからのメールを必ず受信できるように設定してください。\*参加には費用が必要です。(一般500円、大学生300円、高校生以下無料)  
問 名古屋フェアトレード・タウンにしよう会  
naftown38+wasp@gmail.com

夏休み子ども日本語教室  
ボランティア募集

名古屋国際センターでは、7月から8月に日本語学習の支援を必要とする子どもたちを対象とした「NIC夏休み子ども日本語教室」を開催します。この教室で、日本語学習支援をしていただくボランティアを募集します。応募条件の詳細はウェブサイトをご覧ください。  
日時 【ボランティア活動日時】  
①生徒申込受付:7月19日(日) 11:45～14:00  
②クラス:7月22日(水)～8月26日(水)の毎週水・日曜日 及び8月8日(土) 9:30～12:00  
※ただし、8月9日(日)、8月16日(日)は除く。  
場所 ①名古屋国際センター4階 第3展示室  
②名古屋国際センター3階 第1・2研修室  
対象 外国人の子どもたちの教育支援に関心がある方  
定員 30人(\*活動回数や活動日程に基づき選考します。選考後の活動日程の変更はお控えください。)  
費用 なし  
申込 5月7日(木) 10:00から5月31日(日) 17:00まで、ウェブサイト、メール、電話および来館にて受付。  
交流協力課 ☎052-581-5689  
vol@nic-nagoya.or.jp

